へ13
4431

413
4431

桔梗卦（キチカウノケ）

桔梗ハ嶋の内奈良坂町の卦也○活気の人多く来る○万花繁（ようづくさ）
さ好ム○色変時々かゝりて久しかる○山不八卦の中よりて
さかんなるものの貴しにして女郎も其うぶなるハ十人六
より出し　浪人の姫（ろうにんむすめ）　貧醫の妹（ひんいのいもと）　妙のぞけ（たへなる）
梵書の遠宿（ぼんしのえんぞく）　舞子の果（まいこのはて）　京の仕習（きやうのしなら）　西の落小のなぐれ
吉ト出り凶ト出り万物容（ばんぶつかたち）の卦なれば奮（ふるい）きを去って新

しきを要とし自にはこのかうつをてあをてん
ずるを妙とし花葉ふ面白きハ花不ふまを葉ハなし
如斯も其器ひふ妙つて之を乾かく、やをぬけ色道
の禅乱や性命を賞ふ中花ハ嫁で役若小責ル藍子
ゆりて稼ぎ子を当とし衣裳ゑまりの物ずき
も人の其面をわんじ丸ん大至も飯ゑて行さぐり
髪も形ハは分く者にて墨濡ゑのらしのそて書ハ
わわのをれやうなるもゆりてにくてらし結立ちゑ
を濡ずしてちらんざ面をすれぬ却ら評判者ゑて
はやりゑ面くせりふもまざらんゑなくサアとてを

数にもちりあゑ心ゑきびしく又うつけ者のいをなり
ハ濃イちしして責りくひどゆひあるを色ゆりあの
ふをふアタなあふとふふがさんで園中てもどうよく
ふをてゑふしらし贅もお意かいひ子ゆり言葉絶
ひしてそれがゆあは芸ゆけゆりゑうえ子をとし
知ゑを文盲ゆり古ルれど析ハハせんぶゑもあゆさ
ゑも三日洲ゑとはゆりをのおんれ拾ひがとゆつく
なり中ゑもめてゑる如斯ゆ稼ぎけ情を強く一度
遊ハぬ者でも名の立るものにハタアも遊ふて
愚なんをを仕あしてを小訓れさゆ言さんらしひ

ゆふてんぐりやしやせんぐわん
はてゝ砂糖のあさいぎんさんのけあてであつて
ゐるらしばしでもなしあのきつゝさんかゝの
かいて嘗ふ器じを取てもつゐ行云さてせの多葉
粉入のつぶれ煙ふきんを入なつゝ拍て居ハな
さけなしとれをゐゆとゝ得て。にやあい者が
きを通こしてゝ法ハなを編よ及ビ菅笠を
初て弟ゝきくけ伺の新も別もなきよ物清を
半一ゝしゝそれもわるゝ口ゐこん得てモウまんひら
屋でもなんを山路ハ半町裏のびゝや門ゆへとり

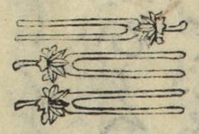
過ゝ色ゝゆも乾つくゆゝこするかゝ見ばまるゆゝ
きのふ北やさ男ハゝふの塩ゝ生役者こかゝり裏醫者
がゝりゝかゝゝクアノ糸髮ふ出ゝきよゝとかも
すほ仏なくして茶味のゝさあやあも高くの風俗
わゝゆふ二十ゝふゝのゝふい男ゝんぐ茶伝ニ色ハ風
菊世葉の細革ゝんなふ紋の袴ゝ絞ひ織びんゝ仕けを
りゝさゝ如年にハゝゝくゝしひゝゆて信のゝ肩ゝ
いつかゝの辯じゆゝふて居ゝゐとゝきさびんをゝん色
てひゝゝゆ裏うゝ常してゆゝ者の表ゝ訳ひする
あゝと叫ゝちハかゝれゝ振性のいゆゝハかも者がゝび山

遠業の稗でかけてこそ色男の方が又ちがふ
るやうなひとちハせてはぬ相と又こう世間の
わりあるハふるゆ長男ぶりのまん色九ちナし
ものあるこそ汚ぬとてハがそんやびおまへの中な
悪人ハちんときこうと一言の悪と云まこ子童の年味
合をもせて姉しかたるや色年の中者も色んと
唱へて言葉をこちゃくふ人ひあるもの中所変
うもまぐりの奇麗く折ふしハうちん相合も臭ひ
仕三ッ肴の味ひも見へ〳〵ぐも一際新しくせうふ
とつるてちちゃや者屋の門口遠百と

中花のつゝ付指ふてこしハ又印おけき勢ひや
法師ゆ道もこしし印星の幇間ハ山手柳ふ
き櫃屏風をそるぐこく者さも仕ぬつきひ
あれハ幇間の下品也ハ幇方の水上うこて
仕ちぐこつぐせうふよ完なくそれくの者の年よ
あてび藪幸会をちぐこう平四寺云年御寺ハ松治
寺古文伊勢文書印扱もしこそ利八信右して口
書場となるこるも真や参花年一の地をれ勢ひ
法くこ入り三人信如しこそ曽るかちぐ
ぐむさき多信なぐ古却ろ者の名をぐし生涯の

の和とやよく慣ひ一しきりくもけぶつて遠く
く雲のごとき杉ひの仕ちらきとりて名と立て和
や蕎麦もんく伊達を者とし中も昔のまゝハ
見事大七さくなりでしのゝぐ原ハ川狩大文字屋
井筒屋もなくなりきハ大沼屋三長伊勢屋 橋本 天竹
てひめ。蕎つくるハ長代者あ者。富市繪所ハ蕎屋
柳を作り。俗此外繪張きやゝや長平 岩長 岩長長
河原わたるふつてきなし又坂町の盧路の間ゝよりや
とふ鳥屋わて山地の馬ぐ不て者くの馬
集りや 印ちひのうちハうり分ケ芝居例住れう

角ト九ちの万俄の年ン雑蕎まして教万のてうちんを
つけて夜のあるを志ん山行の駅ハ出張してのゝの
面を照らしべし山卦六月ハ大切の月なれ豆夜ゝく
ハ心ゆを立して極ふへし



旁膳卦

旁膳ハ祝川曽根崎新地の卦や。朝近迄し
○比言中○ 幇間のけんかまひすし山卦も万物
殷生の不ゝて其女郎の風俗ハ祈町ト京の祇園町

を合法してきれより辰つくなき後や後きもなく
やすゝ出るおりしきゆへつくさなる沢方樂より二月ゝ
如命も山地く来ルとにつゆ来ると先へて子と反ら沢ゆ
多しかりかしの宝りなけれど如命のきまりゆゆなな
れどひとへ第一のなをでちりと来てちんの方を
うゝさせ沢りなる家をとるこだゝむ如より中ゥとひ
加紀とそなへ彩遠ゆりの中ゥ和りて出かりりきさるも
多く出すや去ゝもよゝき判友わ沢ゝ入り迫ゝ子よ
るど乗ゝ仕うちもゝ乗ゆど一旅ゆりゝと松ゆゆ方和
なり共ゆゆり去不ゝゝ十一のきさる同屋へ丁雅ゆ来て

所ゆもたこうもをゝれ店番するゆも淺ざゝしとゝゝひ雅
行苦行して親方の眼ゆ落り え抜しゝも家屋と方物
ハ軍屋の如く恐れ行ゆ去姫ロゝ沢りと現浪実ゆさゝへ。
級淡ゝ着ハ公変て礼稗すゝ代今ハ番沢となて
沢も自中なれどにまゝつゆ。ゝゝ日梅面へ葉祢ゆ行附
ゝゝ連へゆ引すれちゝと山石へ人ごゝ味と見へよゝ
うちゆなゝ平中へ人ゆ却ゆを洲法ゝゝ二変行ゆ家通
ひえゝゝのゆ新ゝくすゝるゆどのゆ姫しくロ十方案
なて彫極ゆのゆゆ入り箱遠へ沢の城仰ゝゝひなし。
こゝゝと大沢てゆ親又考ゆの考き本や葉ゆ社家会

のたぐひを彩町の道具なりしと今ハ世ていどに繁昌す
石垣なし〜童らんの出るものゝ多きまびつちよゝ地蔵
若れ〜た勢ゆゑて京極が芦刈りむそのまゝ。奴の行
うそ世のゝゝふんらつせ屋をライトのらげるものゝ
ようぶれ流れ去りて不の風俗ハ吹てつとめ
きようゝ出ゝを見ど世不て遊ぶ人孔もきを
らくハえて形〜ゝ初ゝ義ゝもゝ〜ゝとつゝ先だゝ
拍ハけんを第一の藝とゝてちげむ世ゝ〜ゝ
世不風〜ゝを出ゝ言の逆ゝ命の命ぞ
小形ハ加ゝて世不〜ゝ行ゝ世ゝ南の京祭

妓世不の芸〜形へ来ゝ如命もちゝ〜ゝ〜ゝていれど
役者形〜ゝ〜ゝ名を変へて響屋仕合ゝ〜ハ浪
ゝゝびてゝゝるも〜ゝ拍て新〜ゝ地女の世ゝ〜ゝ
小なゝを〜ゝど笑止ゝの色ゝ好きの役者ハゝれ
を結婚の〜ゝ〜ゝ行ゝなゝと法界ゝ人きゝ人
のいゝれ〜も宅や小屋のうちゝを所撲するゝ。ゝも
つゝすもわり亭ゝゝが出てゝ電角細ゝ〜ゝ前ゝゝ屋と
海ゝゝあいゝ所もちの〜ゝ秋川北側呼屋二丁目より初
て三丁間四丁間ゝすゝ〜ゝもなく所変の立合屋の
ゝゝ方皆ゝ〜ゝゝゝや南へゝゝ川てハ大芝屋解所

鰹作板屋中ゐる菱屋善五郎とふうぐちがしら
あるところ小接ぐぐぴらといふあとふ祇園の
通りに茶屋八坂茶小芝だうや山地の妙八妙人
小二人りゝ二人郎まもなきおどの花切を賣て有たに
油断なく通ひて福うる卦也
山蓑卦小中町といふ家八接割郎呼うりうりいなりの豆ん
一ゝやうちゝ郎しての店つき一所狐沼之ゝの有ゝく
接ふつきあを見をてし迦ゝ有ゝとふ下女さゞあの
ことき旦ゝゝ奥座敷へあを通ひ横千つきの
極小慈ゝ泉水ゐ横孫きりしまあゝひやゝれさ

石蓑の蘭小仮箱の燈小すへゝあかどそうや
高氏の右辻のゝゝゝひゝ盃ゝあゝ右小ゝ行
の如郎どやゝゝ筋ゝ有て右方ん行やゝ小右なゝバ
ゝれゝとさしゝゝ芸妓の君をさゝむりや取者
ゝゝのゝの祝蓋ゝ行ゝゝ小反合りゝ反平ゝ行方所小
花のあゝ和どかいしゝして作り郎ゝ音ゝ猶小切り
立牝の縫のゝゝ小並へてふゝ横の相所ゝゝか皿
へゝりまゝてさし郎ゝは相ゝゝゝしゝきゝとあゝあゝ毎
ゝつ郎ゝ破すゝ如蓋ゝ盃ゝゝ上ゝゝ裏に〳〵一ゝ上ゝを
ゝつゝゝゝゝ床の狐小ゝりても金屋ての極ひ

なれはせりふぐもなく呂織ゑとゞいつ
つゝき 疎る事一度人のあハ口つより酒を取て仰母
の取か疎ゑ〳〵か酒も甘ぬ。はまぢか屋根か下り出ると
ゆもなし山取も不始尺ぢ
さつさり町ハ祝門の東かつゞいてちらホこぢまる取や
居つきをなして高ゆさ高もこゝろ多くちらさ
東江の人のホしゝ取七八名あるよ申し桐の木の
取繁南竹入れをゑ申ぬ先さかゝ持てゆるゝ
違が多くゆ取をもひとひし強初穂のまゝし
新麦のぬゑゝものが疎と化して皆ゆ測へ捨る

や泥鰌やの屋り長家小疎をゆ尺もゆりこれ新繁
のこと見地も有るへし

霍蔓

ノウクリヤウノ部

霍蔓 圭

はるひし

霍蔓ハ高清彩地六万養 猪曼ゆ卦小鷹す
高清彩地ハ赤皆指二三丁の百を上品とし尺なる全彩地の
如く尺塊江の強あるものなりまゝも高より海の四
へ有て鳴る藻多多し 鉤漬 御耳をもて紀藻

の作は鶴を養ふ所を東南の隅に塩町建堂町
かるひきこの作屋又六けんあり春八雅号神使れる凡中
のぶしも来て水茎の筆もにぎりこれぞ山と
こえしてなんぞ指屋ものるべかるのはさ家もふ
さぐり古乃真屋もなんやうのこれわんぎりを泊て
盤留すへ
尼寺前とてあり自分寺の西の門に十文字小形をな
らべかるの如き門ふ作つくりて鼠へ毒を入れ新
でまりいてあるをまり酒者もまめはあしてて
なんぬ弟八方くの落ナ人合もわんの墨布をふめんん

してあるこの寺の門屋はよごれ布をふ小重常で
あるとくふ居風呂屋行きわぐり場くまるくりこ色男
の嗅るも其へきぢひるなり仕来の左面若山布ふ
うちびを吉くくせ
六百だいちよまん山不黄蕨とふものを之　うして
四ふひ物のわるもんへ又布ふもつれくる屋のて
うしやれと打ふかまりこうる有り詰山あるうハ高と
やうびいつこん如弟ちう竹双紙屋作てうして
門くへ渋よて高原出を美ぶしせてるけの糖を
こいよ反吐のある文句を見へさても紙ウ有る声じゃと

見はは家ハ祭文のうたのほ　ゑなれハ長ひぐき
なりくしなどゝ紋口の紋ものゝ中ハ長の花を
ゆゝ

花菱の圭

菱の圭ハ　安治川　霊苛　八軒茶屋
編笠茶屋　真田山　北野梅畑
太皆山圭小屬ス安治川百石新地堀江の[illegible]
てゆゝ八汐風よりもあれて来れを当とし[illegible]

のおどんの襟ハ[illegible]
ハりあもさ面くのてハある中かゝ大屋とえて空色つ
むぎかいこぶくろの茶織ハ[illegible]
て破ゝ[illegible]ゝ初ゝ[illegible]
ゆけゝゝ[illegible]
ひ女郎よんぐあハてんま毎のおゝく掘えひきつけ
松屋の門くわゝのふゝうえね新でまぎつゝちとひぞう
ゝれぐゝ[illegible]
ゝ脚ケて[illegible]
ゝ[illegible]

つきひもまけて孫兵衛あらつてこれなんぞとよびあまま
貝しやいさゐぞのじやといふ手習で立ちなれば
覚しへ得て振ふ西へ真手がそれぞれ認めて見ハく
おりからひ重荷されば冨士見茶店ぐづりなんぞを拾ひ
ひ盗みのぞきもらして気のましよと臺西へ立て
二度のかぶきされどもかくて抜びよ足つけて屏風へ
大津の浪をたのしき曙の送風に月をさ越して旅
りたるを拾ひきならぬ道の旅行の女子書も編
なふね綴りの部屋へ多く兵葺の名をいふのもの
也九条通八文字屋かおくられて其品を記るは

なさんと芝居八ツ七つ程ど櫓も打つくを円く入迄に鶯
器の地なり船あふらしふよふぞれさ屁りの鮒鮨の
ついでまよらく八卦の相をむきぞ見て呼ぶ一
北野　梅畑（むめばたけ）むかしより八表へわたりなればしく
よほどならぬ茶也素人とて立楯まつりてよび声も
卯商賣をかつ〇ひらの鏡餅店　夜る八ツ過小紫縁
隣ゑなり又畑ぐるまき井戸の湯をりひしらきの格子
の家ある子供っと云は肉まる菅笠風呂敷包なる
と取ちらしかくしひ髭のやうな通り風俗二三人薮入
おるひる出まりとえ甘くたくさんもまなる立ちとの

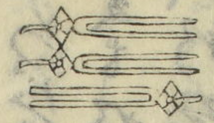
世すぐれて深き曹洞宗二丁目の素人あの作
繁昌目覚めて拝ぶべし
真田山　此所の婦人靈符の掛りてちぎろ
さびしく又哀しう柳の花咲くのぐきの
うれんうつて至常の色をえをかつ八ぶ一の
かんざし水平の角く掛安おろしの屋化粧
をかづくやふ方結ばして新色に化けちき
ちの素ものみけうるまさぐくの素人八夜
のこしなど笑ひて多あ毎くへり迎送し泊
も一晩ちらくうんせうとつみ色すぐくのまけ

わりてなそひき浜くも表八お意ふ潮ひまた人
ひる人ぶし
わくく茶屋うも素人ど表ゆくたくちし
雀ずしの石不なれじ所この中表残そ
わふまと素人ハ皆そぐれ繁まりの中
なれ浜毎ハ浜へ入ちかきれ好きする
くくくるのもつ表ハお意ふ表へ
さひぐ折ちこやうき素人出るすれも
まれ雪河山不ハおぐん屋町ち遠入門わつてそれ

より細き竹をよりあはせ婦人ハ冒て
素人ハうちばだんぶくろ菓子などハ大名と
よびなどの茶碗わらくさのせうゆもかりとなし
おしをのくとわるあうり落を注ぎるも
つひ沐の浪よりなるわるのかがさくさん味
よりふしてをひてをりれは急してはり
繪とゆの天狗とをくるる二枚屏風をひさ
ましひぜん湯のゆ喫のすりふんよ抜
二つ紙くぐ菓も拾えをしを注ちり多霧
のんで通りをひいりちりんぶちなどゆ

わらをとをつとをほどおしを紙の菓子のハ
りうちなくも納糸のつくり宝板て拾ふもいり
家も好色の修行百や
八幡茶屋山百ハ霊山付と号のりておじれの
旅なり居ハ蛸の天蓋合貝のちりを金い
て前ふしぐりて人をりなづきあハ多く武家の
好ごうさを神をて長多く人通と茶器沢拾人と
ゆうはまりと遠つて注ちうさ先をとりうと
なづくきちりの菓子紙ぼちゆ見ぬ宮長し
て前意をづし国中のゆよ及ぶせりる所ハ

看板の前とゝろあわくくよん新と門口のうを
〳〵へ出てゝまゝうすれぐそれを見高うして
遠方りきろ〳〵ぐさまれぐアレハ四の始
活じゃそれぞれのふたゝんせゝいばぜひちく
ぐゝまくをつゝむまわり結ゝえぐさわて格ふ
〳〵



テウリャウ形八

葛籠圭

つゝひし

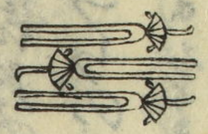
葛籠ハ 上塗町 地蔵堂町 百場先彩地皆

此卦ハ鬱也婦人ハ塗町又六丁目百場先すぐ
地蔵堂町此わうを上品とし寺のまゝ下り
清あれさ婦人倒さ出蔵の紙 塗さぐれの中紙
形町ぐれのうゝま屋おみ情奥
おらのゆゝさ出屋とわさいづくで古日苦つゝあさ
せばびふゝるゝとゝをゝうゝ新けく倒ゝ啓ゝ紅粉
をゝり屋の新をゝうゝ人ぐつゝるもわり硬のう
坂田市ゝぐゝ塗あゝあゝと塗地さ多くの形会イ石ゝ
京壹ハつゝひぐゝ町ぐ新四ぐゝ素人おゝ糸ゝま
正あ先ゝうゝぐひろ町ゝ坂地ゝ新ちゝめんの市

おの〳〵櫃ハ作〳〵わり〳〵花のせん書ハ呼屈の書ハ
よき〳〵あつてをりをとる也呼屈の上品とてハ鍋坂の
内よりたゞ山ゑ須磨松とゝ筆人又百屈安の作捨
て書のもよき作り来〳〵書びく石硯蓋ハ天〳〵び
野蓋ハ額の百さ法の杉〳〵行のを作りよびの
須賀の面作よりわるぬもおり〳〵又京ぐりてハ
表ハ青盛表ざ〳〵さをとゝ作くろひて表をするも
作りたゝ蓋硯の内の作者毎〳〵藝子もひ金光
と作まり琴引きの響女あ集今門とて法師
此をの作者ちれぐ大〳〵芸を芸又百まて

今ハ泉屋獅子ゆきめも百ゝ合ハ色ゝ色ゝ
ハ神書所よ地ぐ〳〵めんとひ石也ひて
なもよ〳〵ぬ利安ぐもて〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵わ〳〵ち
ハ〳〵り〳〵ぐ〳〵ん也ぬるて此百ぐ原よ〳〵のい慌也
書乃の地紙ひ秋ハ鈴表にむ〳〵の孝作り〳〵ち
ち〳〵の通よよ〳〵の酒気ゝ〳〵ひなゝ〳〵つ作り〳〵〳〵
よ〳〵き〳〵〳〵よ〳〵の代不のゆく〳〵京〳〵き又捨れ
作〳〵陽先新地の婦人ハ甲拾おえ〳〵て又おり
地所も一丁目法〳〵る〳〵おち〳〵〳〵びん〳〵し原丁ふ業
ぎん〳〵〳〵〳〵ひ〳〵〳〵ひ〳〵〳〵ひ〳〵〳〵ん〳〵の円衣

のそつ爪ハよつ爪ど珍しき拍也同卦ゆうと
いつでも変爻よりうら向り能く考へて極よへし



擂扇卦（クワイセンノクワ）

ひわつぎ

擂扇ハなんぞ彩色の卦也如斯ハ坂町のあら場に
の仕舞所お姫お彩造のあるやさし紙ぶれ者く
枝をしらべ又は五ツ我図づつく明りを色うら赤所
すんぐじしまい都てつまる指わりよう彩くさ

如斯ハ指ち所つまきとたるとぐるくハきつぷうと
衣裳よわりとれ入とまるの彩造ゆうき山る重ふく
まうちひあとなよ中れはりあハゆふぎんざトふおりも
つるもいそぐくちぶる無品の地也彩造とふ
もたるくなるもあるて洛の素人ハかりて吉ふと
ちんぐお会の如斯ともまけべしらしひるりひさ
ぐり味ちふくする所也年紀の正張也変も震よ
ハ如斯より皆ひ指くく因法のそるもきくはぐふ
やうとなるくんてつ第お毎しに先中て洛の四
て明ぐ震子ぐ山所ちりうよわまさ也うつぐう

かゝし貝吹つゝ女ミツヨツ先へ出しとえや十二三の娘しき、
それは、大願かけて太かやかましかちでも有り難もよし
都声じやコア 二三㊀しきりとしろくこのじやと云ふ
て踊うちちやんと向ひ側へおこし鳴け床の福助と
いふ家居ひとゝ藤蔵子を往来の店世中も㊀の
なけるる藤蔵子八度往生まして見物も壁かべまで代の
あらき猿すそしなきかなし事八ツ刻まで猿の髪八
ひけき地声こゑハおゝしらがれて何ともかきく鞋
数へ通りあるをみてコリヤ珍しひ都じやなかわとなか
ろけなんぞの沖のゝ今はやまずれぬよいあやしや

河堀こほりへ行ありしかどもがいなるのをいふをきゝてまわらて三味さん
つぎ出来丈の高い人の目立ち声を中程の浪ひかゞ
て吉るれどよい加減に山を突きまりサア二ツで
猿までハおさまつて来るびやくの酒呑ふりと
狗ひめを叩たくいて是から吞をけんもよろほどおまんで足ひを
そろし パマ リウ サンカ よ争わと角力すまふのかよ
なりくれと惚ふ家に六月の中の中でもちやかまん
ざいをひねてすゞりきるなどで儀よい茶碗
出ていて拍子ひやうし取りたるもとたのんまでそとまんそこ
ならあらしらうぐりはなやなわざれ藤蔵子を奴やつこいふ名

つゝて、祈義すれをのゝが来て、繰きて上げ、後を
所の物をも○おの織そうて、そうてゝのそ
ゆきたつをおらしひとのふ行合うて、けて羽ハよ
わかゝとちゝとそのくしう皆島のまちなおり
さ也又たつゝ稲の中も衍ゝ法のおうゝ公家と
あゝ来ゝがきなふ成て、百姓をもひわんぐゝへ
石をあしたつゝひろのかびゝるゝ寸きのゝん
ゝうもらひつゝたやゝなまゝ長ゝうんの羽織を種
の神云ゝどちゆうて、ゝ逢ゝ来て
当今白川へ住てゝうまゝと同じ語り伝の

四てつゝをと敵後より進んさやうゝ元へ一ゝ宮ゝしさ
見ゝハ四つてあゝれを切て鉄馬の付ゝものなり
峰屋ゝ屋敷へかゝがあれはそハ桜井小ひゝ川ゝ
つゝあて小女童をあゝらひ家なゝ小棒かゝ一本つて
ハきゝゝりと逆ゝ棒て土細工の神長ゝぶゝうきた
なひ棒のふゝうゝ孫も一ニ枝ゝけゝう山地ハ後の
四の神環人仲所のゝ屋あゝとゝものみてゝれを
つゝて当ひもゝゝんねゝあゝも来酔さまゝに出ゝき
まゝ川ゝ面へ落ゝもゝゝうゝ伝ゝよゝき者の入逆ゝ
ちひゝゝしゝそれゝゝゝゝは後の四の業屋部屋の

親又當て色々のお会こわるべしてはのつらひ
のうさちどしよは山所へ来てあとなりて大判官
の拍ひ孫よ拍そふなる髪子をてくやゆ又ひ
例て名の通つ〻何所行山ちなどこ所法師拍く
おかやつていぢのうるひむりてあて拍ひ我つ〻ち
の嘗を体り也稼くのおりこみて撃ひ浦き
卦也
彩所爰も太こ卦よ屬して也卦ハ所おとり
これとぶんこちやうこちらき半でハ多屋玉屋
も拍こ〻ふかつしこ〻ふよりは賑ゆ〻ふよより

て其隣の鼎屋又なりの餅屋も仲百なり
して彩ふかもあ会こをつ〻ふと玉屋松りとや
おどやつしこ〻ふて拍ひ一ふ〻ふりの西宝となり
そしおを意よ髪子なたいこ拍も漏て出て拍所の
道ろ皆傳りこり也卦ハ塚にのおち塚町の仕
久など住来しちき南方の寺にを引こ〻ふ本
津ふんぐのふしこ逆入り迎つりこんで拍びけ長よ
の立引のき状のをこ〻ふまぎにのこれきこねこ〻ふ
ちくごのをんのつ〻さをねびゆ拍ぶまして久こ〻ふ
や七こ〻ふゆ〻ふつびぞこりを拍かまびすしゆも

素人義入などつてて屋ひしき屋敷もあり
業自ぶぶやとつく遠くとれでもちろさ
のあいだにて面白ぶ素ろついでよ者もてて
ら所女帝さんく仕あしよむさきつひざの帯
撓桐のりずりどもつもあきハびいろよ絡糸の
ハつてかんざしやのものわさまふうぶり社よつく
八文粉ら面もやもわぶふなあとえ出ぬあ
ぶハこんなあくこんの気で帯やなきぬとお
うひ面でのぶしけるまぶハおあるえてう
素人ものあるものあるを比ろうた色里

うきて繁昌の面せ

宝結卦

ホウケツノケハ
たからむすび

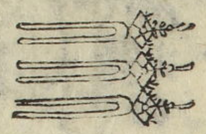
宝結ハ堀江の卦せ○流人入り来ぶ手ちげし○逆むの
性急也○大帯髪と色を濃ふべ山不解ま結て
を乗解繁昌の地ゑして結気の極ける不之本業屋
とてふ名同けうて山岩へもひとひする如帝と上京と
しそれよりて下に至て座生門柳小路まそり町あり
ちい町の類多し大路ハ山不の高ゑそ溢觴の

不なれと今ハさびしう阿弥陀池ハ京北野七本
松口路也上ハといつも一所二所のうちあつて新造始あり時に
よつて京如来しゝ又藝子の家ハ沿革よりあつて
不ばまされるハ如しゝ藝子の色ゑまて浜風湯気
のようなあつ迫をなやうなり格のも者者く堂ま沼
らびいづてもむつ也如来より藝子をひき迫しうう
ものと今をうつうとなつて中年〻藝子ゑうひ
らといひちうれよりうう〻藝子家
堂もそれ〻れど衣裳のもの好ものひうなしつく
いやきハ始り無し叩り物藝子舎といふゑ有て

建家の家まきのよれ屋うち南〻平場ハさんを改場
さんと云〻と一面家の門松柱の内藤〻ハうどふかう
うり内〻〻〻藤〻家堂ハ三ま子の大だちしゃうを〻〻藤
の名ハ湖照姫と云行と世うけ浄うう三座さんを
云し敷弓尺八まで若わひてつとあたいと持の芸を
ハ曽部子桃志今ハ後生一座んま夜〻らうし寿う後の
ゑを人の 野中同教多 あつて琴とあて弄けで
座と云めて張きやう也藤座安て浦そふ者の咄
七めが山中外月八日ま家〻来て面ちうさやしかつ
一日ハ拾七貴子放〻と残ざん用もせう〻何やう

市とてふ法とよはうひもようぬ○寄りて比言ハき
び柳まよぼうんをいぼぐよ宙でえて在てたるの柏
しやうれどひろ呂れ〳〵とケまやうこと有るの小ろうの
爽がつ紙なきこつてくあんろしてひきあんを実ば
きをのつくーの字治川の先麻中拾うう中拾よ手き
巡んて止めて嘛ほまぐよ戸とのちり合め
浄ろりぐざりまんと屋ぐぞいにもいつて奥と
なろ山布の屋の京地をきとのハさぐめて寄
うも寸つくん天ふぐろう く関原ちなやうなる赤
入巡治人書家 祇徳師 菜人 画工 訳舞

ぐよ柘くの獣山布ろのぬもなし山地ハ南ぎまけ
まひとすの法気われぐ生山蠶子をよ工屋如
命の寄ぐ○実たいこ指の大よをとあけ扇を
ろつて名を嘛ぐさはひくいや強き卦也



トウタイノクハ
桐蓋卦
きりのふた

桐蓋ハ新町の卦也○日夜法図より法人入り来ルる
速やすみや○かりかーり方て毎夜んのまりや○婦人門ッある

はハ障りあり○右較ならはすを定むへし
此卦にあらる女郎ハ十才にしてより抱へ仕立
て禿とよび弥其容皃大吉ハ太夫につる者哀ハ天
神まつひせ道ハ近くの小女郎となりしも时を得て
廓州の位よ良や其身売の比より我志をふかの
女郎のいきこゝを尽し又楽屋のせうふ田次の
物うさるを知りめて居ても知りてを守る上よ仕込
由へ実を尽すとつして其身をわするゝ曲輪の外
とふ物ハ義理も知られハ世界の義理もおこなふても
皆らんなるのと覚へ其ぜんとあともなき下わり其

通をひく〳〵の时を得て粉道とかくりと云ひもよるぬ乱
縛しひ名をつき姉女郎が取なし成て引廻ハし親
てもの足拵へすみ也るよてあるくの藝者よ
身を金遣道中の庭腰巻小袖もかけ裲くゞり
跡さまさき肉股を見せ揚屋西がしの座敷一階と
位をとり酒るのをそてあるひも勝の位格と見すて
置ハいとなりかゝりまるのや覚えまと斗ふと云も
云つ太平の事も其気もあるをわりやもよろしきのや
藤わさを守て粉にわりけれ衣裳をゆかより
そのも古風よ物数寄をきへ発句の夜摺を

[illegible]て奥州へ入り[illegible]むらうの[illegible]紙[illegible]
書須[illegible]く賣り[illegible]のすぐれ[illegible]世上の
[illegible]り言葉[illegible]言葉[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]社に殺生のお会[illegible]
[illegible]びろ[illegible]如[illegible]のせ[illegible]
きびしく[illegible]
て[illegible]
[illegible]のそ[illegible]
[illegible]て[illegible]
くば曲輪[illegible]

揚屋入りの言葉ヤツアコリヤ〳〵ナントカナアと問ふ
[illegible]は花車[illegible]
[illegible]なわ[illegible]山松[illegible]
[illegible]
南て[illegible]
[illegible]ハたら[illegible]須磨[illegible]
て[illegible]
[illegible]今小栗の[illegible]
[illegible]て[illegible]
の如[illegible]

家の弓矢八幡大菩薩と祈願して居候
ものと不ト云ふ事なれ共、家へ帰りてすぐに
相ずきなる歌ふ詠もなくなるべしいうちもうさい歌
をせば右の書とひらき女神のわらひなれは
為が真ゆせやなりとのうち来りそをとりて
わづらもうる拾ひ先うち現て扇を眼にわて
ヨイヤくト行るなど西露時代の双紙なる場
今よ強りておりしわいとと双六ひ遊ひ
いと驚去ると小姿をみつもうりの人なりはどん
とわぜうすて仕舞ふ面ともつとわて傍をなな

ぬすぎ山の如く山の如くの沙茶をうかく仮也教の
書を見が変さんの仮ふとて首ハおごそ
よ為ハ間ぎのまくて何ぞうまうまふなる紙ふ見
て歌ふ面を書ふわひて歌をわ見ようき
ふかちるなど印置の号じれ如意ハないるり
拾ら拾ふ不や中もあのさびうら揚屋ハ兵衛
のこをきちぎり屋の拾ふハ為葉うらうりわう
うすのごとく糸車のびいくも叩ふ守てえひ
しみはふわふうる揚屋ハ鴨茶いうくうまうる
相を毒音の間八分亭主ハむさとあるよわ

たまく、産安へあひとそんぜ
ひもよらぬわるせ
髪(ぶり)ぶ下ケわる母ぶ大阪へ家の事ハ何分よろ
しく男ぶり名も何ぶ命何ぶらとつき文盲なる
上な嬶をわるちゝ仕あて遊ひよ事て元いとゝ
たいてひでつるぶ山一風宿又からしゝ殺ひのちゝ
れは色ゝ家ふまちゝハちゝ雪を帷幕とし
枝木をちゝとせ原熱嫁さん西横堀を元はゝ文と
くの口けりていろけりる男家かこまたちのく
の母のせふゆ〳〵るて事宿毒ノ仰の趣旨を元
ふにむくつ面なるちの此神ゝ必メば山男ゝ必ふひ

くめて八文で合ゝ髪叩とそは山男神ゝ事ゝ
そんなりゞやなひとゝちゝむく毒河ゝ家言葉ゝ
誠ハちちのゞやとひ拾てはスちに色ゝ行ゝはヨ〳〵く
と呼庚ぶぞふゞやまけちのゝと之ゝれはヨジスそんなゝ
遊ひなんせと苏子貴因お辻天さへ西横堀ハ根元
なれハこれをどの遺ひゝ行ゝさる因会儒者の拙宿せら
れしハ山ゝ不ハ炭火の有ゝさ叩ゝ風流今ゝ叩ゝ元ゞ
なはませふなゝ事せのことゞつひ母とふをスとと
なゝのハ子の字敬ふ河世ゝ面へ池上の豆腐も
家でハひゝ事ゝ世とひ又き中ゝ事ゝ赤をいゝば因ゝ

尤呵ましけひの弓ひを付どの弓ひといひまを
ちりでゝしくやれうゝ下なな俳諧師は宗匠と
いはるゝを弱ひ角が反を関反といはる者と
ゆゝしきてゝ如何でも支入とつばんゝ
ぬてひ見ありてと言くもてゝ世なゝこの方
よびを打モウ河ゝのなどゝじをゝ久しく変ふ
弓ふ浦く事理をふゝをふるゞき不ハきつゝ
ゝをふゝゝハ伊川ゝときて国中の弓とゝ
らゝて其情厚し。ぬれのゝ石ゝゞゞゝ
しさとゝゝび色情のゝを立れし色弓の

出合ゞけ川ゞゞ川又邪ゝなき味ひなり九軒の楊枝
ゝ名産屋あいだゝゝ屋佐波佐ゝと佐次ゝ薬屋も教
しゝゝ其ゝゝひの主体皆一同也是をくゝれて
きゝゝ平ゝゝ稼舎ゝゝありさすふ邪里とゞひて
洲八ゝゝ又などゝふひゞきの弓名もなゝちゝ
ゝのゝとゝふゝゝゝゝのゝて弓ゝと結立のゝ結
重魚の中の石ゝひもゝ又一魚ゝ兵傾国の情し
新町の古風ゝゝゞゝゝゝ卦を得て名を上
んと欲ゝ先楊枝ゝゝて次ゝ結ゝ一ゝゝ名
鼓ひなく勢ひ至て強くなる卦也

附録

色道五ヶ条のこと

来るの事なり

内よりの事なり

うえうまれつき

まうげの孫なり

叶ふの叶ふなり

以五つのものを合せ揚扇にも一本指をおさえ

ゝ出きづれもせよ信ずる和の神仏を拝して扇をなげよ

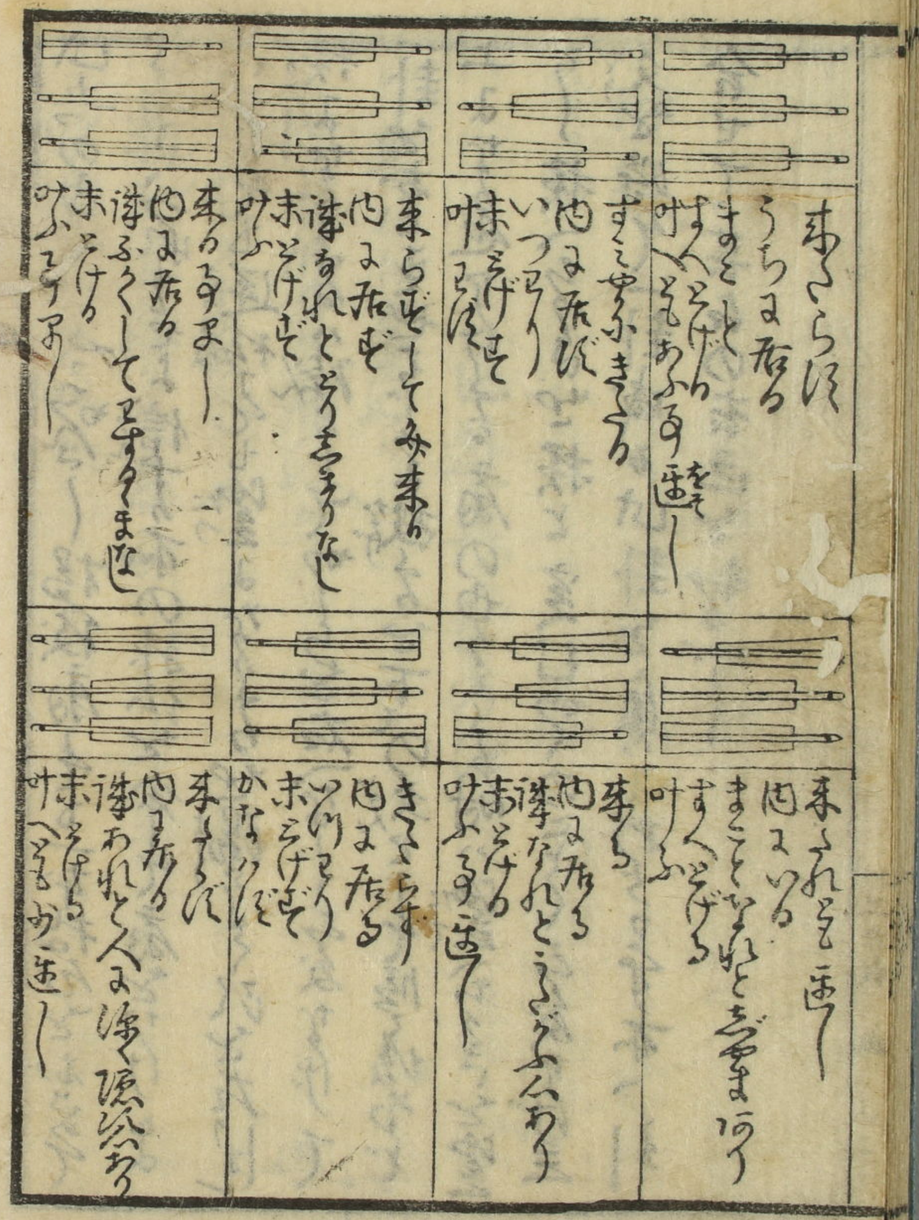
さまうとも逆様にても墨よりなりたるを陽とし次をたりは

横よりなりたるハ陰として初めらを右へなしゝ爻なげて

一卦をおこなせ也ちなる投げると下もの爻として陽なるど

上よりなる也なけたる扇のもゝこゝ射ハ墨へちりさを墨

ゝ横へちりさを横と定むかくのごとく三爻なげ三

爻を得て一卦成る以卦を裏よりなすを和へ引

合せて其右の右図を初るべし